

「少し妊婦生活にくたびれて「腰痛や血流の滞りが楽になる」いたころ、温泉はまさに癒やしと温泉の効能を強調。夫婦一緒そのものでした」。村杉温泉に入ることで転倒や長湯の危険ある角屋旅館(阿賀野市)のホ性も回避できるという。ームページには、つかの間の休息を楽しんだ女性たちのコメントがあふれる。わずか10室の湯宿だが、プライバシーを確保しやすしい切り露天風呂を自当

## 宝磨いて

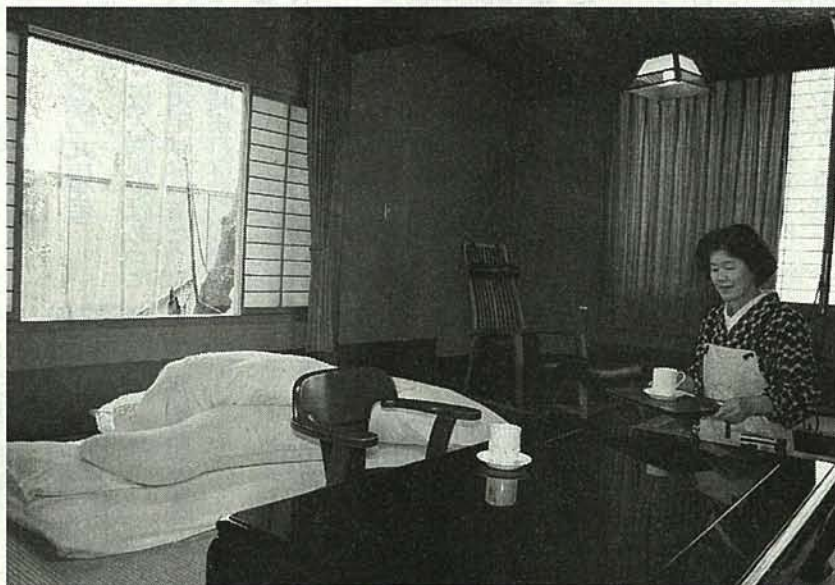
観光立県への挑戦

△▽

てに、出産を控えたカップルが多いときには5組も訪れる。従来、妊娠中の温泉入浴は衛生面などから避けるべきだと考えが支配的だった。しかし、

抱き枕、くつろぎいすなどを個室にそろえる。近くには安産祈願の寺とされる「優婆尊」もあり、多くのカップル客が足を運ぶ。以前は宴会場を備え、団体客に頼っていたが、8年ほど前から次第に個人客主体に衣替えした。特に大切にしているのが年何度となく訪れる常連客で、「3人のお客さまから言われたら必

# 妊婦に貸し切り風呂



抱き枕やハーブティーなど妊婦に配慮したサービスをそろえた角屋旅館の客室＝阿賀野市

になった。

弥彦村の「四季の宿みのや」は昨年12月、家庭を持つ主婦や忙しいサラリーマンなどをターゲットに「0泊2食プラン」を始めた。宿泊せずに約10時間滞在し、屋食と夕食を食べながら温泉に入浴。布団でこる寝まで楽しんで8千円と、1泊2食のほぼ半額のお得さだ。

宿泊者がいない時間を活用した通常の日帰りプランと異なり、宿にとっては一部屋を1日1回転しかできないリスクもある。白崎純也専務(37)は「平日の稼働率を上げたが、料金を下げるだけでは限界。付加価値を上げて他との差別化を図る必要がある」と狙いを説明。利用者の反応も良く、同村の他の旅館でも導入を検討しているとい

## ニーズへ対応、0泊2食も

ず実行」がモットー。妊婦向けに引かれた療養目的の客も多。サービスも利用者の声から生まれる。客室稼働率は8割を超える。

大量の集客を見込める宴会需の悪い高齢者向けに階段に昇降機を備えたり、格安の素泊まり

自家製のコメや地元産食材をふんだんに取り入れた食事は「量控えめ」などHプランから競合激化も背景に、多様な選べる。きめ細やかなもてなしする消費者ニーズにこたえるよう

## 再生の鼓動

## 多様化